

新しい年のスタートとして、多くの人が「今年
の目標」を掲げたことでしょう。その内容は、自
分自身のこと、家族のこと、仕事のことと多岐に
わたっているのではないのでしょうか。

倫理経営の拠り所となっている純粋倫理とは、
「実行によって直ちに正しさが証明できる心の
生活法則」であることは、ご存じかと思えます。
理想とする自分自身になるためには実行（実
践）は不可欠ですが、身の回りに起きた苦難や問
題に対して、どう向き合えばよいのでしょうか。

それには、「なりたい自分」を最終的なゴール
（大目標）とした時、そこに行きつくまでの、解
決したい苦難（中目標）や、必要な準備（小目標）
などを設定してみることも有効といえます。今週
は、苦難を一つひとつ克服して、会社を変革した
経営者のF氏の体験をご紹介します。

関東近郊で製造業を営むF氏は、父親から事業
を継承し、倫理法人会活動にも積極的で、順風満
帆に会社を運営していました。しかし、ある日、
社員の一人が取引先との間で、トラブルを起こし
てしまい、先方から「すぐに社長に来てほしい」
という連絡が会社に入ったのです。

その時、出張先にいたF氏は事態の重大さを軽
んじていて「すぐに」と言われたことを、先延ば
しにし、目の前の仕事を片づけることを優先しま
した。謝罪に向かったのは、電話連絡を受けて、
丸一日経過してからでした。

F氏が先方の会社に到着すると、いきなり強い
叱責を受けました。腹を立てたF氏は、問題を起
こした社員に対して、懲戒処分を言い渡そうと思
いましたが、その時、ふと頭に浮かんだのは、先
代社長である父の言葉でした。



自己変革の積み重ねが 目標の達成へとつながる

「企業は、経営者の器よりは大きくはならない」。
父の言葉が蘇ったとき、知らず知らずのうちに、
何事も自分でやらなければ気が済まないワンマ
ン経営者になっていたことを痛感したのです。
〈自分は社員の尻拭いをしてやっている〉と、経
営者としてのプライドを振りかざしていたに過
ぎないとF氏は、反省したのです。

このままでは自社の発展はあり得ないと気づ
いたF氏は、自分の心を改めるために、まずは社
員への挨拶を始めました。これまでの社員への態
度を改めて、詫びの気持ちを含めて挨拶を実践し
ました。次に、清掃に取り組み始めました。清掃
をするなかで、〈他人を責める気持ちも一緒に掃
き清めよう〉との思いで行なっていました。

実践を積み重ねるなかで、F氏の心境の変化と
共に、社内の雰囲気も変わっていき、社員同士も
明るい挨拶を交わすようになっていきました。

現在では、自社の原因でトラブルやクレームが
起きたときは、最優先で対応するようにしていま
す。それを全社員の共通認識として徹底するよう
になったF社は、取引先から、「迅速な対応をし
てくれる会社」と評判を回復したのです。

きっかけは、経営者としての自己変革を目標と
していても、やがて、社員や家族など周囲へと影
響を与えていくものです。小さな目標達成の積み
重ねが、最終的なゴールへと続いているのです。
今年一年、周囲に目を向けて「なりたい自分」
に向かって、目標を実行に移していきましょう。
最初は、思うように結果が出なくても、自分自身
の向上にあわせて、熱き思いは周囲に伝播するは
ずです。焦らずじっくりコツコツと、自己成長と
いうゴールへと歩み続けてまいりましょう。